



中野区
議会議員

中村延子

区議会レポート

発行 / 中野区議会民主党議員団

中野区中野 4-8-1 Phone: 03-3228-8876 Fax: 03-3389-8718

編集 / 中村延子事務所

中野区弥生町 4-36-6-402 Phone: 080-6533-9450 Fax: 03-3380-3150
email: n@nakamuranobuko.jp

Vol.9

平成26年11月号

平成26年第3回定例会決算特別委員会にて総括質疑を行いました。

1. 行政評価について

(1) 外部評価について

中野区は平成12年度から試行による行政評価を開始し、平成14年度から外部評価を行政評価制度に取り入れた。昨年からの外部評価のシステムを大きく変更した。

Q 昨年からのように変更したのか。

A 行政評価の精度を高めるとともに、より効果的な評価を行うため、また平成24年度の外部評価で指摘された、重点分野をローテーションで定め、集中的に評価をすることを検討してはどうかという意見を踏まえ、内部評価の時間を十分にとりその上で外部評価を実施するように変更した。外部評価は3年スパンで全分野を一巡するようにし、また

実施時期を10月以降にすることで、決算資料を含めてより詳細な評価を行うこととしている。また、公開ヒアリングに先立ち、分野ごとに事業説明会を行い、施策別に事業概要や実績等についての確認を行うという変更を行った。

評価を通じ、管理職をはじめとした職員は行政評価に対する理解と意識は高まっているのではないかと考えており、形骸化しているとは考えていない。今後についても随時見直しを行いながら、行政評価の質と実効性を一層高めていきたい。

平成25年度外部評価報告書の「外部評価の総括と今後の課題」のところで、「プレゼンテーション面で行

(2) 内部評価について

政担当者のふなれな点が多々あったことは否めない。貴重な区民との対話の機会を捉え、効果的なプレゼンテーションを心がけてもらいたい。そして、一方的な業務説明ないしは業務の正当化を図るばかりではなく、外部評価委員との対話を通じて業務改善のためのヒントを得ようとする積極的な姿勢、取り組みを期待したい」とのコメントがあった。

成果指標が妥当であるとかないとか、それぞれの評価の中でさまざまな指摘を受けている。もちろんPDCAサイクルの中で指摘を受けた部分に関しては改善していく必要があるが、この成果指標が毎年こう変わる、毎年の事業実績を判断できなくなる。一方で、成果指標が妥当でない場合、事業実績自体はかかることができない。毎年この「成果指標が妥当ではない議論」を目の当たりにする中、チェックの後のアクションがとられているのか本心に心配。

Q 平成25年度の外部評価は11回目ということだが、そもそも外部の目を入れ評価していただくということとは、業務の改善のためのものではないか。「正當化を図るばかりではない」と言われてしまうことは、行政評価への形骸化ではと感じてしまうが、区の考えは。

Q 今後、区としてこの問題をどのように解決していくのか。

A 指摘のとおり外部評価委員のヒアリングなどの際には、一部に十分な面があったということも認識している。全体としては、自己評価・部門総合評価、内部評価委員による

A 適切な指標の設定については、目標の達成度を適切に評価する上で必要であると考えている。平成27年度の指標については、指摘も踏まえ、区民から見えてわかりやすく他の自治体との比較も可能な統計情報、統計調査等の結果を用いるなど、統一的な考えのもとで整理・改善を行った。一方で、経常的な評価も可

能となるよう、一部従前の指標も残すなど、円滑に適切な指標によって評価を行えるよう調整した。

2. がん対策について

私が生まれた1981年から、日本における死因の1位はがん。今年度、新規事業として子宮頸がん検診、20歳～40歳の未受診者に対し、はがきにて受診勧奨を行った。帝京平成大学の学生に御協力いただき、勧奨はがきを作成されたが、とても素晴らしいのびになっていると感じた。

Q 受診勧奨により平成25年度は下がってしまった受診率が、平成26年度に大幅にアップする事を期待しているが、区に対してあった問い合わせ件数は？

A 9月5日にはがきを投函し、9月8日から18日までのわずか10日間で1、167人の方から問い合わせがあった。ちなみに25年度、昨年度の受診者数が8、200名余りなので、大きく受診率の向上に寄与するのではないかと考えている。

Q こういったスポット的な受診勧奨はとも効果があると考えている。子宮頸がん検診での継続も含めて、ほかの検診でも実施してみても感じるが、考えは？

A 来年度以降は、乳がん検診、あるいは、ほかのがん検診等々の受診勧奨とのバランス等の兼ね合いを見て、いろいろ検討していく。



平成 25 年度決算が認定されました。

中野区議会民主党議員団の決算に対する会派見解は以下になります。

「区民の意向を理解し応える区政を」

平成25年度普通会計の歳入歳出決算額合計は、歳入が1153億8352万円、歳出が1124億9154万9,000円となり、実質単年度収支が3年ぶりの黒字となりました。経常収支比率は7年ぶりに低下したものの、依然として特別区平均を大幅に上回っています。また、性質別歳出を見ると義務的経費が前年度と比べ3.2%の増額になっており、人件費が減少しているものの扶助費と公債費が増加した事が原因となっています。高齢化が進む中、今後も扶助費が増加する事が予想されるため、持続可能な財政運営が求められます。個別の施策では、特別区税など主要 3 債権の収納率向上、大規模公園整備や大和町および弥生町の不燃化特区を利用した災害に強いまちづくり、区内全街路灯の LED 化、被災自治体への支援継続は評価します。中野中学校新校舎整備については、議会から様々な指摘がありました。それを真摯に受け止め、今後の子どもたちのより良い教育環境作りに活かさなければなりません。中野駅周辺まちづくりでは新庁舎配置未決定による南口開発や西口広場設置など事業全体への影響も懸念されます。区長選挙の投票率が象徴するように区民の区政への無関心化が進んでいます。区が掲げる全員参加型社会の実現には区民の意向を正しく理解する努力が必要です。

日米青年政治指導者交流プログラム 訪日団の受け入れをしました！

3年前に参加し訪米をした日米青年政治指導者交流プログラム。9月23日にアメリカからの訪日団の受け入れを致しました。前半は、都内青年議員との懇談会。議員活動や、女性の社会進出、地方議会での重要施策などについて意見交換をしました。後半は中村延子事務所に来ているインターンの大学生との懇談会。学生が抱える将来の不安や、興味のある政策課題、アメリカの学生との違いなどについて。ともに充実した懇談会となりました。相互理解には、このような草の根交流がとても重要だと改めて実感致しました。



中村延子

なかむら のぶこ

略歴

1981年 9月2日生まれ 東京都中野区出身／東京文化小学校、東京文化中学校卒業／米国アニーライトスクール高等部卒業／米国クレアモント・ピッツァーカレッジ卒業／在学中、北京大学医学部へ短期留学／約4年間、民間企業に勤務／民主党衆議院議員手塚よしお秘書、参議院議員蓮舫秘書として経験を積み、2011年4月中野区議会議員選挙で1530票をいただき初当選／**役職**：厚生委員会・地域支えあい推進特別委員会副委員長

www.nakamuranobuko.jp

趣味

●音楽、料理、旅行、フラワーアレンジメント ●おとめ座／B型／酉年